



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第96回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

2018年まとめ④打者編(その1)

「投手は打者を待たせない。打者は投手を待たせない。」とテンポのよい試合運びに相互のチームが取り組んだ結果、県大会の平均試合時間は2時間前後という状況です(素晴らしいことです)。もちろん、試合時間優先だけではありませんが、高校野球は1日に同一球場で複数の試合が組まれ、2時間/試合でスケジュールされています。選手・指導者の皆さんは、2試合目以降の試合であれば、試合開始時刻をもとに準備を進められると思います。引き続き、チーム、審判一緒になってテンポの良いゲームを心掛けましょう。

さて、本テーマである、打者も投手と同様に若干の課題が残っています。中でも、その一つは大怪我(最悪の場合は死亡事故)にも繋がりがかねないものです。以下に3つの課題についてマナーとルールを解説しますので、今一度、皆で考えてみましょう。

【課題1: 打者が投球を避けない】

※絶対に行ってはいけない危険な行動です(野球関係者から不用な事故を起こさない)。

- 安全性を確保するため、打者は義務として両耳ヘルメット着装、また、任意でエルボーガードやレッグガードの着装が許可されています。着装の趣旨は安全の確保ですから、これらの安全保護具の着装を利用して、「投球を避けない」あるいは「故意に投球に当たりにいく」という危険を招く行動は前述のとおりです。当たり所によっては大怪我にも繋がります。公認野球規則 5.05(打者が走者となる)(b)では「(2) 打者が打とうとしなかった投球に触れた場合。ただし、(A)バウンドしない投球が、ストライクゾーンで打者に触れたとき、(B)打者が投球を避けないでこれに触れたときは除かれる。(中略)投球がストライクゾーンの外で打者に触れ、しかも、打者がこれを避けようとしなかった場合には、ボールが宣告される。」とあります。

【課題2: 打者が捕手の送球を妨害する】

※相手に守備をさせない行動です。マナーも違反しています。

- 走者1塁、2塁の際、盗塁成功を助けようと、打者が空振り後に本塁上に出る、あるいは レイトスイングといった所作は打者に守備妨害が宣告されます。公認野球規則6.03(a) (打者の反則行為によるアウト)の(3)では「打者が送球を妨害した場合」とあり、また、同項の「【原注】打者が捕手を妨害したとき、球審は妨害を宣告しなければならない。打者はアウトになり、ボールデッドとなる。妨害があったとき、走者は進塁できず、妨害発生の瞬間に占有していたと審判員が判断した塁に帰らなければならない。(後略)」とあります。つまり、仮に盗塁が成功しても、走者は元の占有塁に戻され、打者はアウトとアウトカウントが増えるだけです。更に、三振でアウトとなった打者の妨害の場合は、守備の対象となる走者にもアウトが宣告されることとなります。(公認野球規則6.01(a)(5)参照)

【課題3: 打者が打者席を外してサインを見る】

※打者の簡潔な行動が、テンポの良いゲームを作る。

【球審へのあいさつは不用】

※ネクストバッタースボックスからバッタースボックスへ直ちに入り、投手を待たせない行動を!!

- 右打者は3塁側ベンチ、左打者は1塁側ベンチと自分の背後に自チームのベンチがある場合、監督のサインを見ようとして打者席を外す選手を見かけます。公認野球規則 5.04(打者)の(b)の「【原注】打者は、思うままにバッタースボックスを出入りする自由は与えられていないから(後略)」とあり、打者は打者席に留まる義務があります。サインを見る際には、軸足はその場に残し、投手側の足を開くことで、速やかに打撃姿勢をとれる態勢を維持しましょう。



イラスト協力: 兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
佐々木 ちひろさん (2年)